港湾振興便り

2018．11

第138号

＊：

目　　次

＊：

1　ポートエッセイ

—予算獲得へ港づくり全国大会

前年度比1．19％増へ気勢—

～日本港湾振興団体連合会会長（新潟市長）　篠田　昭～

2　トピック

●みなと座談会を開催

（北海道開発局　港湾空港部　港湾計画課）

●「北前号で行く！北前船寄港地交流酒田モニターツアー

～日本遺産・みなとオアシスを活かした地域活性化～」を実施しました

（酒田市　地域創生部　商工港湾課）

●山形県酒田海洋センターで「海の生き物ふれあい体験」を開催しました！

（山形県　県土整備部　港湾事務所）

●「第17回　港湾感謝祭」を開催しました（仙台塩釜港　石巻港区）

（石巻市　建設部　河川港湾室）

●様々な可能性を秘めた相馬港！「相馬港セミナー2018　in　米沢」を開催！

（相馬市　産業部　商工観光課）

●子ども教室「みんな集まれ！海っこ広場」が盛り沢山に開催！！

（北陸地方整備局　敦賀港湾事務所）

●海にいいこと、やさしいこと、はじめよう！～「東京湾大感謝祭2018」を開催しました～

（関東地方整備局　港湾空港部）

●みんなの生活展2018が開催されました

（四国地方整備局　松山港湾・空港整備事務所）

●西条市内の小学校3校を対象に、出前講座を実施しました

（四国地方整備局　松山港湾・空港整備事務所）

●みなとde働く船が大集合！！

（九州地方整備局　下関港湾事務所）

●「本部港クルーズシンポジウム」が開催されました！

（内閣府沖縄総合事務局　開発建設部　港湾計画課）

●クルーズ船「バイキング・オリオン」、「コーラル・プリンセス」、「アムステルダム」

「ウエステルダム」、「スター・レジェンド」が那覇港、石垣港へ初寄港

（内閣府沖縄総合事務局　開発建設部　港湾計画課）

＊：

1　ポートエッセイ

―予算獲得へ港づくり全国大会
前年度比1．19％増へ気勢―

～日本港湾振興団体連合会会長（新潟市長）　篠田　昭～

＊：

今年も「経済と暮らしを支える港づくり全国大会」が10月25日に東京で開催された。石井啓一・国交大臣をはじめ国交省幹部と、自民党港湾議員連盟の望月義夫会長ら多数の国会議員のご参加を得て盛大な大会となった。参加いただいた会員の皆さまに深く感謝する。ありがとうございました。

（「1．19％では足りない」）

公共事業に対する一時の逆風は収まったものの、港湾や港湾海岸防災関連の予算は依然として厳しい状況にある。そんな中で石井大臣や国会議員の方々の奮闘もあって、来年度の予算概算要求概要では港湾関係予算は前年度比1．19％の増額となった。昨年度に比べて0．03ポイントの増加である。

増額への努力は多としたいが、大会の港湾行政報告で下司弘之・港湾局長自らが「これでは、とても足りない」と心情を吐露したように、「とても満足できる額ではない」のが会員一同の思いだろう。しかし、まず「1．19増」を満額勝ち取ることが先決だ。大会の後、財務省のうえの賢一郎副大臣ら財務省幹部に①多発する大規模自然災害からの復旧・復興②日本経済の成長力強化③国民の安全・安心の確保④地域の活性化と豊かで利便性の高い地域社会の実現―の4項目を柱とする要望書をお届けした。

（二階幹事長とも意見交換）

同じ要望書を自民党の二階俊博幹事長にも提出し、意見交換も行って港湾整備への熱意を感じていただいと思う。もっとも二階幹事長からは「いまの自民党は大規模災害に適切に対応しているのだから、そこは評価してもらわなければ」との注文もいただき、「これまでとレベルの違う災害に、港湾をより有効活用していこう」との方向を確認できた。

（北陸方式も参考に）

全国大会に先立ち、前日に北陸地方整備局管内の関係者が集まり「北陸の港湾を考える懇談会」も開催した。以前は全体会だけだったが、数年前からまず各県単位で地元選出国会議員らと意見交換し、その後に全員で懇談会を開くやり方に変えてみた。「要望や意見交換がより具体的になり、充実した」との声が関係者から挙がっている。「このやり方は北陸だけ」と聞いているので、参考になればと思い付け加えた。

（新潟市長を退任）

17日をもって4期16年務めさせていただいた新潟市長を退任します。日本港湾振興団体連合会の会長は、来年の任期いっぱいお世話になるので今後もよろしくお願いします。

＊：

２ トピック

＊：

●みなと座談会を開催

（北海道開発局　港湾空港部　港湾計画課）

１０月１８日～１９日、NPO法人北海道みなとの文化振興機構主催の第１５回「みなと座談会」が、北海道留萌市で開催されました。

この座談会は、みなとから始まるまちづくりを女性の視点で考える「北海道みなとまちづくり女性ネットワーク」の方々が参加し、各みなとでの活動を報告する会です。

当日は、北海道開発局港湾計画課の松良課長からの挨拶の後、（株）エフエムもえる代表取締役佐藤社長からのご講演がありました。佐藤社長からは、「まちづくりを支えるのは、地域のことを自分事化して考える人を増やすことと、その活動を情報発信することで自分からアクションを起こす人を増やすことが必要」とのご発言がありました。

その後、座談会が執り行われましたが、参加者の方々からは、まちづくりに関する様々な意見や、現場での工夫、また、みなとを利用する人々に喜ばれた様々な工夫など、現場で活躍されている方々ならではの大変貴重な意見が出されました。

この座談会をきっかけとして、今後、北海道のみなとおよびその周辺地域が更に発展していくことが期待されるところです。

座談会の様子

●「北前号で行く！北前船寄港地交流酒田モニターツアー
～日本遺産・みなとオアシスを活かした地域活性化～」を実施しました

（酒田市　地域創生部　商工港湾課）

９月１５日（土）・１６日（日）、秋田市から参加者６０名を招き「北前号で行く！北前船寄港地交流酒田モニターツアー」を実施しました。

１日目は観光施設「相馬樓(そうまろう)」で酒田舞娘の演舞を鑑賞しながら昼食を取った後、傘福作り体験やまち歩き観光で「北前船寄港地・船主集落」として日本遺産に認定された港町酒田の文化と風情を楽しみ、その後、みなとオアシス酒田で港の歴史や役割を学びました。

２日目は「鳥海山・飛島ジオパーク」として日本ジオパーク認定の飛島に渡り、手付かずの自然を満喫しました。飛島からは、定期船「とびしま」でクルージングを楽しみながら秋田港に戻り、なかなか眺めることができない海上からの秋田の景色に、参加者の皆さんも大変喜んでいました。

今回のツアーを通し、参加者から今後の地域活性化、観光振興のヒントになる多くの意見をいただくとともに、一層の交流促進にも繋がる貴重な機会となりました。

※定期船「とびしま」：酒田港と飛島を結ぶ連絡船

艶やかな酒田舞娘の演舞

秋田港に向かう定期船「とびしま」

「傘福」作り体験

●山形県酒田海洋センターで「海の生き物ふれあい体験」を開催しました！

（山形県　県土整備部　港湾事務所）

　10月6日（土）及び7日（日）、山形県の沿岸に生息する海の生き物に直に触れて観察することができるタッチプールや県立加茂水産高等学校の生徒が生き物の解説を行う「海の生き物ふれあい体験」を酒田海洋センターにて開催し、2日間で292名の方が来場しました。

　タッチプールでは、子どもたちが、ウニ、ヒトデ、ナマコ、ヤドカリなど、普段触ることのない生き物におっかなびっくりしながら触り、歓声をあげていました。また、ミズクラゲやタツノオトシゴの展示も行い、珍しい海の生き物に子どもたちだけでなく大人の方にも興味を持っていただけました。

　来場者からは「珍しい生き物とふれあうことができ、子どもが楽しめる良いイベントだった」などの意見をいただき、とても好評なイベントとなりました。

●「第17回　港湾感謝祭」を開催しました（仙台塩釜港　石巻港区）

（石巻市　建設部　河川港湾室）

10月14日（日）、石巻港区大手ふ頭において、港の重要性や役割をPRすることを目的とした「港湾感謝祭」を開催しました。

17回目となる今年は、巡視船「くりこま」の一般公開をはじめ、東北地方整備局所有の港湾業務艇「ひより」による海上見学会も実施され、参加者は、普段は行くことができない防波堤に上陸し、港湾施設の役割を学びながらそのスケールの大きさを体感しました。

また、大手ふ頭上では、石巻港に立地する企業や官公庁がPRブースを設置し、港での仕事や役割等が紹介されたほか、税関職員による麻薬探知犬のデモンストレーションが行われました。

当日は、時折小雨も混じる肌寒い天候となりましたが、地元「よさこい」愛好会による演舞や高校生によるチアリーディングの披露、また、海上保安制度創設70周年を記念した餅まきも行われ、会場は、終日多くの来場者で賑わいました。

巡視船「くりこま」船内見学には長蛇の列

海上見学会で雲雀野地区防波堤（南）に上陸

地元「よさこい」愛好会による演舞の披露

高校生によるチアリーディングを披露

●様々な可能性を秘めた相馬港！「相馬港セミナー2018 in 米沢」を開催！

（相馬市 産業部 商工観光課）

10月30日（火）山形県米沢市内において、福島県相馬港利用促進協議会の主催による「相馬港セミナー2018 in米沢」を開催し、市内の企業等から約130名の参加がありました。

セミナーでは、会長の立谷相馬市長が「港湾を中心にした物流による経済の発展や広域観光圏の実現など、様々な可能性を秘めている相馬港を理解していただきたい」と挨拶した後、港湾管理者である福島県の畠副知事、開催地を代表して井戸米沢市副市長が挨拶されました。

続いて、猪狩福島県相馬港湾建設事務所長から相馬港の概要と利用状況、髙田国土交通省東北地方整備局長から、相馬港を核とした広域連携による南東北全体の経済発展への期待などについて講演がありました。

また、相馬港利用企業の生の声として、鋼材加工・販売会社の(株)アイ・テック及び石炭・バイオマス発電を開始した相馬エネルギーパーク合同会社から相馬港の魅力などが発表され、(株)アイ・テックの大久保相馬支店長からは、工場見学に来社した企業から「良い所に目を付けましたね」と評価されていると紹介がありました。

今後の相馬港のさらなる発展が期待されています。

満員となった会場

●子ども教室「みんな集まれ！海っこ広場」が盛り沢山に開催！！

（北陸地方整備局 敦賀港湾事務所）

10月20日（土）、きらめきみなと館小ホールで「みなとまち敦賀」の子供達が海に感謝し、港への理解を深めるための子ども教室「みんな集まれ！海っこ広場」が開催されました。

本行事は市内9公民館が共同で企画し、市内小学生を対象に3回開催する体験学習会で、当日は第2回目として小学生と保護者39名と海洋少年団7名が参加しました。

参加者と保護者は3班に分かれ、①まつかぜに乗って敦賀港を見学、②港の講座、③海洋少年団の手旗披露の3つをそれぞれ体験し、当事務所は港内見学と港の講座を担当しました。また、きらめきみなと館大ホールでは日本遺産に認定された北前船を中心に、鉄道と港の町・敦賀を県内外に広くPRする「観光物産inみなと敦賀フェア2018」が同時開催されており、教室修了後には北前船についても学べるなど、とても盛り沢山の教室となりました。

参加した子供達が、今後さらに港や船に興味を持ってくれることを期待しています。

「まつかぜ」に乗って敦賀港を見学！

港の講座の様子

大ホールでの北前船の歴史展示スペース

敦賀海洋少年団と手旗体験！

●海にいいこと、やさしいこと、はじめよう！～「東京湾大感謝祭2018」を開催しました～

（関東地方整備局　港湾空港部）

10月18日（木）、20日（土）、21日（日）の3日間、横浜赤レンガ倉庫広場や大さん橋ホールなどの会場で「東京湾大感謝祭2018」を開催し、10万5千名の皆様にご来場いただきました。

「東京湾大感謝祭」は、東京湾再生官民連携フォーラムのプロジェクト活動のひとつとして、都市に住む市民や企業、団体と国や自治体がともに、海の再生を考え、行動するきっかけを提供する場として、平成25年より、例年10月に開催しております。

20日（土）、21日（日）の正午には、汽笛を一斉に鳴らし、海への感謝と安全の願いを港に泊まる船とともに表す一斉汽笛が行われ、多くの方々が笛などの鳴り物を持って参加されました。

横浜赤レンガ倉庫広場会場のイベントステージでは、20日（土）にオープニングセレモニーが行われ、阿達雅志国土交通大臣政務官をはじめ、朝日健太郎参議院議員、平原敏英横浜市副市長や多くの港湾関係者の方々にご参加いただきました。また、オープニングセレモニーでは、くまモンやチーバくんなどのゆるキャラ、歌って踊って釣りもできるアイドル「つりビット」が東京湾大感謝祭の親善大使として登場し、大変盛り上がりました。

今年から新たに会場として追加された大さん橋ホールでは、初開催となるスペシャルプログラム「BLUECAMP」や全国の自治体から選りすぐりの恵み・物産・くらしを紹介するふるさと納税・恵み・くらしフェア等が行われ、こちらも多くの方々にご来場いただきました。

関東地方整備局では、横浜レンガ倉庫広場の会場内にブースを設営し、当局の事業を紹介するパネルや清掃兼油回収船「べいくりん」の模型展示を行った他、今年は、2019年1月1日に開港150周年を迎える新潟港の魅力をPRするため、北陸地方整備局も参加し、新潟開港150周年を記念して行われ

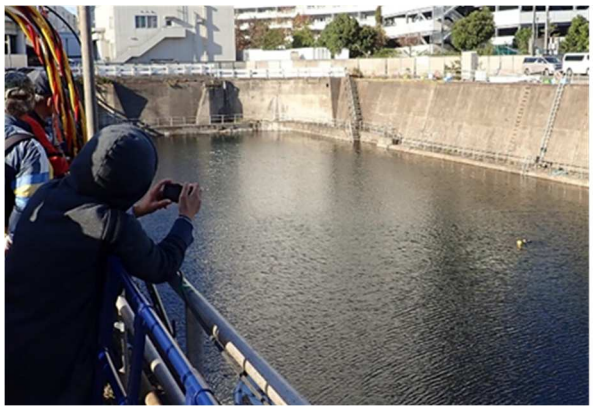
る行事について、ブースを訪れた方々に紹介しました。また、H29土木学会選奨遺産に認定された「京浜港ドック」（横浜市神奈川区）においても、一般公開と海水を注入したドック内での潜水士による潜水作業のデモンストレーションを行いました。20日（土）には横浜赤レンガ倉庫前の海上で、「べいくりん」によるデモンストレーションを行いました。

オープニングセレモニーの様子

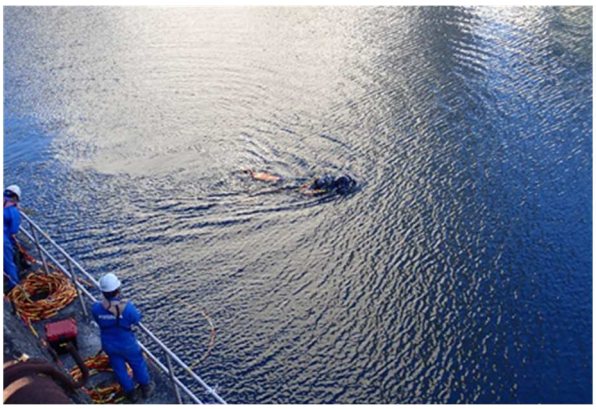
会場の様子(入り口)

会場の様子（赤レンガ倉庫広場会場内）

関東地方整備局ブースの様子



京浜港ドック見学会の様子



潜水作業のデモンストレーション

べいくりんによるデモンストレーション

●みんなの生活展2018が開催されました

（四国地方整備局　松山港湾・空港整備事務所）

10月20日（土）に、愛媛県松山市の大街道商店街にて「みんなの生活展2018」が開催されました。このイベントは、「安全・安心に暮らせる社会」の実現を目指して、様々な団体が一堂に会し、消費生活のあり方、環境への配慮、心身の健康に関する各種啓発、相談、体験を行うものです。

当事務所は、パネルやスライドショー、海洋環境整備船の模型展示を行い、海洋環境整備事業について紹介しました。

パネルで海洋環境整備事業を紹介

海洋環境整備船の模型展示

●西条市内の小学校3校を対象に、出前講座を実施しました

（四国地方整備局　松山港湾・空港整備事務所）

10月5、10、15日に、当事務所と高松港湾空港技術調査事務所が連携し、防災に関する出前講座を実施しました。耐震強化岸壁の説明や、ペットボトルを使った液状化実験を通じて防災意識を向上させることを目的としており、小学校の総合防災学習の一環として実施したものです。

小学生からは、「液状化の怖さが分かった」「家族と話して避難経路を考えておきたい」など多くの感想を聞くことができました。

耐震強化岸壁の説明

液状化実験

●みなとde働く船が大集合！！

（九州地方整備局　下関港湾事務所）

　10月21日（日）、明治維新150年やみなとオアシス下関登録1周年を記念して、みなとの仕事に関する理解や関心を深めてもらうために**「みなとde働く船一般公開」**が開催され、下関港のあるかぽ～と岸壁（みなとオアシス下関のエリア内）にみなとで働く船（作業船）が大集合しました。

　みなとづくりを担う作業船3隻（九州地方整備局の「海翔丸」及び関門港湾建設㈱の「関門」「関栄」）の船内公開や「みなとに関する仕事」・「みなとオアシス下関」のPR、同時に、暮らしを支える「働く車」が公開され、 延べ約5300人が大型作業船3隻を見学。約1万人の来場者が船のイベントを楽しみました。

★作業船：右から浚渫兼油回収船「海翔丸」、グラブ浚渫船「関門」、コンクリートミキサー船「関栄」

●「本部港クルーズシンポジウム」が開催されました！

（内閣府沖縄総合事務局　開発建設部　港湾計画課）

　本部港が2017年に国際クルーズ拠点として位置づけられたことを踏まえ、北部地域全体で拠点形成に向けた機運を盛り上げるとともに、クルーズに関する行政、民間及び地域住民の相互の理解促進を目的に「本部港クルーズシンポジウム」が本部町・沖縄県・内閣府沖縄総合事務局の主催及び北部振興会の後援により10月217日（土）に開催され、地元住民をはじめ、観光事業者や周辺自治体等から270名余りが参加しました。

　来賓としてご挨拶された島尻安伊子内閣府特命担当大臣補佐官は「沖縄県内へのクルーズ船の寄港は近年好調に推移しており、活況な沖縄観光を支えています。クルーズ船受入れに向けハード・ソフト両面において関係各所が連携して取り組むことが求められています。本シンポジウムの開催を契機として、国際クルーズ拠点形成に向けた機運が醸成され、クルーズに関する行政、民間、地域住民相互の理解が深まり、本部町はもとより北部圏域全体に実り多きものとなることを祈念します」と述べられました。

基調講演では沖縄県内において数多くのクルーズ船のランドオペレーターとしての実績をもつ(株)JTB沖縄の杉本健次代表取締役社長より、クルーズ船寄港による経済効果や雇用効果が期待される一方、寄港に伴い発生する様々な課題を解決するため、行政、民間及び地域住民の相互理解と受入体制構築のための協議会の発足について提案がありました。

パネルディスカッションでは大谷健太郎名桜大学上級准教授がコーディネーターを努め、パネリストには、平良本部町長、山本三夫(一財)みなと総合研究財団クルーズ総合研究所所長、小島博子㈱EGL OKINAWA代表取締役、前田裕子前田産業ホテルズ代表取締役社長、大城逸雄那覇バス㈱・㈱琉球バス交通常務取締役が登壇しました。パネリストらは本部町をはじめとする北部圏域の観光の魅力と課題について討議し、課題として体験型観光コンテンツの不足や二次交通体制の脆弱性が指摘されました。また、その解決方策として、広域的かつ多様な主体との連携を図るための受入協議会の体制構築や多様な旅客の特性に対応できる柔軟な二次交通体制の確保、CIQ手続きの迅速化に加え、恵まれた自然環境や地元特産品を活かした観光メニューの造成による北部地域のブランド化など、様々な方策が提言されました。

本部港では2020年の供用開始に向け、官民連携による国際クルーズ拠点の形成に向けて、世界有数のクルーズ船社であるゲンティン香港とともに20万トン級のクルーズ船に対応したクルーズターミナルの整備が進められています。

本部町の平良町長による主催者あいさつ

島尻大臣補佐官より来賓のご挨拶

(株)JTB沖縄　杉本社長による基調講演

パネルディスカッションの様子

●クルーズ船「バイキング・オリオン」、「コーラル・プリンセス」、「アムステルダム」
「ウエステルダム」、「スター・レジェンド」が那覇港、石垣港へ初寄港

（内閣府沖縄総合事務局　開発建設部　港湾計画課）

クルーズ船の寄港で賑わいを見せる沖縄県内の港湾において、10月から11月にかけて5隻のクルーズ船が初寄港しました。

那覇港では10月12日（金）に国内初となるバイキング・オーシャン・クルーズ社の「バイキング・オリオン」（47,842トン）が寄港、10月20日（土）にはプリンセス・クルーズ社の「コーラル・プリンセス」（91,627トン）、10月31日（水）にはホーランド・アメリカ・ライン社の「アムステルダム」（62,735GT）、11月4日（日）には同じくホーランド・アメリカ・ライン社の「ウエステルダム」（82,348トン）が相次いで初寄港しました。

石垣港では11月3日（土）にウィンドスター・クルーズ社の「スター・レジェンド」（9,961トン）、11月5日（月）に「ウエステルダム」がそれぞれ初寄港しました。

両港では初寄港を歓迎するセレモニーが行われ、花束の贈呈や記念盾の交換、地元の芸能などを披露し、クルーズ旅客や船員らをもてなしました。

国内初寄港となったバイキング・オリオン

那覇港へ初寄港したコーラル・プリンセス

那覇港へ初寄港したアムステルダム

那覇港・石垣港へ初寄港したウエステルダム

石垣港へ初寄港したスター・レジェンド

＊：＊：＊：　本メールマガジンに関するお問合せやご意見、また情報の送り先　：＊：＊：＊＊：＊：＊：
日本港湾振興団体連合会事務局
〒105-0002　港区愛宕1－3－4
TEL：03-5776-0630 FAX：03-5776-0631
e-mail：bcf06323@nifty.com
＊：